

平成20年度 TA 活動報告書

TA	1 回生	教科教育専攻	音楽教育専修
TA採用教員名	田邊 隆		
TA採用授業科目名	初等音楽		
採用延べ時間数	授業科目 初等音楽：26時間		

【TA活用内容】

- 1) 教員が行う遅刻・早退を含む出欠面の再確認。また提出物の確認。
- 2) 教員が行う音楽理論（音程・音名・コードネーム等）に対する受講生の疑問などへの個別対応（内容理解のための補助）。練習問題の添削。
- 3) 受講生に対するピアノ伴奏及び弾き歌いの基礎的表現への支援。
- 4) 支援中に得た受講生の練習状況を教員へ報告。
- 5) 資料づくりの補助、及び学生記録（個人カルテ）記載の補助。

【TA活用による教育的効果】

- 1) 受講生の実態は、大学の入学試験で「音楽」領域を課さずに入学するため、理論的理解や音楽表現（実技面）での個人差は極めて大きい。受講生の実態は、読譜できない状態から楽器演奏の経験がある受講生まで様々である。授業内容がピアノ伴奏や弾き歌いであり、1台のピアノで15名の学生へ対応しなければならず、TAのサポートは、受講生の理解を助けピアノの実演を示しながら教える活動であり、極めて効果がある。
- 2) 受講当初、読譜できなかった受講生のコメントであるが、「決められた鍵盤を押すのではなく”音を奏でる”事ができるようになるとともに、決められた音に違和感を持ち、自分なりの弾き方や音を考えるようになった」とTAへの感謝を述べている。

【TA活用上の今後の改善点・課題等】

- 1) 授業準備の段階や授業後に、個々の学生の状況を報告・検討する時間が多く、TAに対する拘束時間が必要である。現実には、これら打ち合わせ時間は、「実務実績報告書」には入っておらず、TAは、報告書の時数以上の時間的提供を行っている。
- 2) TAは好意で、放課後に、受講生の質問や実技指導を担っている。特に音楽経験の少ない受講生にとって、練習段階での助言が不可欠だけに、放課後などの質問時間は、受講生にとって貴重である。（TA自身の指導力向上という意欲や好機と捉え、TA自身は納得している。）

